

断夫山古墳発掘調査成果（速報）地元説明会資料

断夫山古墳

史跡・断夫山古墳の範囲・構造および遺物の残存状況等の考古学的情報を得ることを目的に発掘調査を行っています。令和元・2年度では、墳丘東側にあたる芝生広場内に設定した調査範囲にて、古墳を囲む「周濠」の存在が初めて確認されました。

周濠は熱田台地の地層を深く掘りくぼめて造られています。周濠の外縁、「周堤」にあたる部分の上部は江戸時代には削平されていましたが、少なくとも標高は5.6m以上あり、現時点（12/18）までの調査状況では周濠の底面との高低差は2.0m以上となることが判明しています。

令和2年12月19日(土)

・調査区自由見学

10時～12時



【断夫山古墳】

全長:約150m

前方部幅:約120m, 高さ:16.3m

後円部直径:80m, 高さ:13m

葺石(河原石)が存在

出土遺物(採集品):須恵器, 円筒埴輪

築造時期:5世紀後半～6世紀前半か
昭和62年に国史跡指定

史跡指定範囲

令和元・2年度
調査範囲

周堤

周濠

調査機関:愛知県民文化局文化部文化芸術課文化財室

名古屋市教育委員会

(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

調査支援:株式会社 二友組



明治 17 年地籍図と調査地点
 (深谷 淳, 2009, 「断夫山古墳の周濠」
 『名古屋市見晴台考古資料館 研究紀要第 11 号』) に加筆

【観聴寺】浄土宗
 元和年間 (1615 ~ 24 年) 創建
 昭和 17 年に金山へ移る



敷地境 (水路護岸の石積み) 北から撮影



(画像右 凹み) 江戸時代後期 (19 世紀前半)
 の陶磁器を含む土坑 南東から撮影



周濠から出土した円筒埴輪片 (軟質の土師質のもの・硬く焼けている須恵質の両者があります / 左: 表面、右: 裏面)

(仮) 北山古墳: 滅失

断夫山古墳

白鳥古墳



堀川右岸 西から撮影 (あゆち潟からの眺めを想像してみてください)



イメージその 1